

陽の里

発行 平成30年3月25日



社会福祉法人 新生会
総合ケアセンター サンビレッジ
〒503-2417 岐阜県揖斐郡池田町本郷1501番地
TEL (0585) 45-5545(代)
URL <http://www.sun-village.jp/>

No.135

テーマ 人を見る



▲ 新生会の研修のようす



▲ 認定授与式で表彰を受ける今村理事長



平成29年度 岐阜県介護事業者フォーラム

岐阜県介護人材育成事業者認定制度 認定証授与式

岐阜県介護人材育成事業者認定制度

グレード1認定

社会福祉法人 新生会

理事長 今村 寧

平成28年度に岐阜県では、介護人材の育成及び職場環境の改善に積極的に取り組む介護事業者を認定、公表し介護事業者の介護人材確保を支援する岐阜県介護人材育成事業者認定制度が実施されました。平成29年度に新生会が岐阜県初のグレード1に認定されました。この認定は理念実現、職員の技術評価、地域貢献、職員への評価報酬制度の確立等の評価が基準となっており、岐阜県内ではわずか5施設のみの認定でした。この認定は、新生会の職員が長年にわたり質の良い介護を目指してコツコツと努力してきた結果といえるでしょう。

岐阜県においてこのような素晴らしい評価をいただきましたので、その期待に恥じぬようさらなる福祉のあり方のステージを目指して邁進していきたいと思えます。

「人を(地域・想い)看る」

サンビレッジ岐阜管理者

川瀬 由起子

岐阜部門は11年目を迎え、地域住民の皆さんに支えられ、共に成長してきました。岐阜シティ・タワー43は、赤ちゃんから高齢者までが最期まで安心して暮らせる街づくりに取り組んでいます。その取り組みの一つに多世代交流支援センター「新生元氣塾」を展開し、本年度新たに、「ぎふ木育ひろば」を開設しました。ぎふ証明材のヒノキ・スギを使用したみんなが集まる木の屋台(飾り棚)、四季の型はめブロックを導



▲いらっしやいませ元氣塾



▲みっけの子供たち

入し、木育・食育・共育を柱にした、より幅の広い層の多世代交流を企画していきたいと考えています。

そして、今後も「新生元氣塾」の活動を含め岐阜部門全体で、より地域に目を向け、そこに暮らす人々の想いを見るのが大切になります。その人らしい暮らし方が継続できる支援と共に、関わる職員が心豊かであり続けられるよう、人(地域・想い)を看ていきたいと思えます。

「人を看る」を紐解く

リハビリセンター白鳥
サンビレッジ大垣管理者

桑原 陽

リハビリセンター白鳥が開設して、七回目の春を迎えました。開設当初から「アセスメントを大切に。その為には、観察することを大切にしていこう」を合言葉にし、ながら、お互いの気づきを共有し、本人支援に努めてきました。

新規開設事業として初めての環境、新たな仲間とサービスを構築していくことは、一朝一夕にはできません。しかし、七転八倒ではなく、七転び八起き、三歩進んで二歩下がる…の心つもりで一步一步スタッフと共に歩みを進めてきました。

そして、三年、五年と時が経過する中でサービスの質を着実に積み上げてきました。おかげ様で、介護保険利用者のみならず、地域支援事業におけるパワーリハビリ利用者もどんどん増え、活気に満ちた事業所へと成長してきています。



▲介護予防に汗を流し体も心も健康に

今年度のキーワードである「人を看る」には相手を想い、おもんばかりながら、アセスメントを行っていく意味合いも含まれています。リハビリセンター白鳥でも、今一度、原点に立ち返り、アセスメントと観察を大切にしたい実践を引き続き、積み重ねていきたいと考えております。そして、ご利用される方々、ご家族、地域の皆さまからもご意見やご提案を賜りながら、共に創り合っていきたいと考えております。

本年度もどうぞ、宜しくお願ひいたします。

「失敗は悪くない」 と思える心を育てるために

サンビレッジ国際医療福祉専門学校

言語聴覚学科 森 和歌子

言語聴覚士を養成する教員となつて10年目を迎えようとしています。学生を育てる上で心に留めているのは「学生の過去と未来を想像する」ことです。年代、社会経験の異なる様々な学生達と接する中で、自身の学生への「みかた」も少しずつ変わってきたように思います。

「看る」という言葉には「悪い事態にならないよう、気を配って世話をする」という意味があります。打たれ弱く失敗を恐れる学生が増えてきたと言われますが、その一因には私たち教員が失敗を学びの過程として考えるよりも、学生への評価にばかり当てはめてしまふこともあったと思います。過去には失敗を恐れ、手や口を出しすぎることもありましたが、やはり大切なのは失敗を回避することよりも、経験を通して自ら学ぶ権利を尊重することではないでしょうか。学生達はそれぞれ違った経験



▲学生の成長を信じていることができる教員であるように

をもつて入学してきます。その特性によって、学びや変化の速度、タイミングが違うことを本当の意味で理解したのは、学生時代に悩み苦しんだ姿とは一変、現場で生き生きと働いている卒業生の様子を見聞きしたからでした。学生を「みる」上で大切なのは、学生の過去と未来を想像し、全てが学びの過程であると信じていることだと思います。とかく何かを「みる」時には目の前の事実にはばかり目がいきがちですが、学生の長い人生の大切な一コマであることを肝に銘じ、今日も学生の未来を信じて見守っていきたいと思います。

vol.19 「サンビレッジの仲間たち」

成長が出来る職場に出逢えて

サンビレッジ新生苑 トータルサポートセンター

松永奈々江

私は、サンビレッジ新生苑に入社して六年が経ちました。介護の職業は11年目になります。以前は、他施設で働いていましたがケアに違和感があり悶々としていました。その時に、就職説明会でサンビレッジのあゆみである『陽の里めぐり』のDVDを観た時「自分の理想の介護はここにあった」と感動したことがきっかけで入社を決めました。また、『尊厳を支えるケアをめざして』の本にも書かれている事が自分の理想である介護だと実感しました。今まで働いてきた中で「自分からここで働きたい」と思った施設に初めて出逢いました。

現在は、デイサービス、ショートステイで在宅を支える部署に勤務しています。昨年は、他施設研修に行かせて頂き、自分達の部署を客観的に見る機会がありました。法人の理念とケアの専門性を大切に行っている職場に誇りを持つようになり、今は研修で学んだ事を生かしながら業務改善に努めています。これからは、ご利用者やご家族から「ここなら安心」と言ってもらえる支援が出来るチーム作りを目指して日々勉強し、成長していききたいと思っています。



▲音楽祭の英会話クラブの出し物にて

「しんせい語録」の読み解き

もの言わぬ

心の声を感じたい

もやいの家市橋

若園 菜穂美

小規模多機能型居宅介護「もやいの家市橋」を利用されているMさん。脳梗塞で会話が難しく、身振り手振りで意思表示されませんが、どこまでMさんの気持ちがあ汲み取れているかどうか考える時があります。自分達の五感を働かせMさんの思いをアセスメントシートを活用してチーム内で検討します。自宅に訪問した際にはMさんが培って来られた生き様が垣間見えます。「市橋」に通われる際には、好きな事や得意な事を探すうちに黙々と学習ドリルをこなされ、芸能鑑賞では目を細め拍手で表現し喜ばれて参加、泊まりは、自宅環境を参考に安心して休んで頂けるよう気をつけています。



▶地元の神社へお参りされる

「もやいの家市橋」の利用者



しんせい語録

新生グループには日めくりカレンダー「しんせい語録」があります。語録には介護現場で感じたことや学んだことへのヒントが掲載されています。

当たり前前に

専門性が潜んでいる

㈱新生メディカル 瑞穂営業所

蜂矢みどり

話したいけれど、伝えたいけれど、分かつてほしいけれど……話せないもどかしさ、苦しさ、辛さ。そうした「もの言わぬ心の声を感じたい」相手の方が誰であろうとも、どんな時も、相手の立場に立つて物事を考え寄り添う事の大切さをこの語録から感じています。

人は、朝起きてから排泄・着替え・整容・食事・洗濯や掃除などの生活行為を、当たり前のように行っています。しかし、年齢を重ね障がいをもった時、自分の思い通りに行う事は難しくなります。

一人暮らしのSさんは今までお洒落で身だしなみに気を遣われ、地域の方とも交流を深めていました。しかし、物忘れがすすみ今まで自分で行っていたことに支障が出てきました。意欲が次第に減退し、排泄の失敗も多くなりました。

穏やかなSさんの表情が険しくなり、その状況を心配した家族から訪問介護の依頼がありました。これまでSさんが日常的に行っていたこと、出来ることを確認しました。そして、一つひとつの動作に声かけや促しなど、共に行うことにより生活の意欲や自信を取り戻

す事ができるようになりました。

今では、排泄の失敗も少なくなり行きつけの喫茶店やカラオケへ出かけ、地域の方も温かく迎えてくださり冗談交じりの会話や笑顔も多くなりました。

普段何気なく当たり前に行われている日常生活の行為。そこに支障が生じると、生活意欲の低下や身体状況にも変化が現れます。一つひとつの行為には意味があることを理解し、私たちの当たり前前の声かけや対応には専門性があることを意識して支援していききたいと思います。



▲生活意欲を取り戻し笑顔いっぱいのSさん